

2回目穂肥（出穂10日前）は確実に施用

1 生育概況(コシヒカリ 7/17現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈:長い (110%)	茎数:多い (119%)	葉数:やや早い (+0.4)	葉色:やや淡い (SPAD値-1.1)
中山間地	草丈:長い (110%)	茎数:やや少ない (95%)	葉数:並 (+0.2)	葉色:淡い (SPAD値-2.2)

○草丈は伸長しており、葉色は急速に淡くなっています。

○今後、高温が続くと予報されており、さらに葉色の低下が懸念されますので、葉色の推移に注意が必要です。

2 調査結果 (普及センター、JA調査ほ)

(1)コシヒカリ

場所	標高(m)	田植(月日)	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(葉)			葉色(SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平坦地	今熊(浦川原)	14	5/12	79	96%	110%	511	株当24.2	105%	120%	12.5	+0.4	+0.4	35.7	+2.7	+1.4	7/11幼穂形成期
	飯室(浦川原)	13	5/16	79	90%	110%	501	株当31.7	122%	118%	12.4	+0.6	+0.3	30.7	-7.9	-3.6	7/11幼穂形成期
	平均			79	93%	110%	506	株当28.0	113%	119%	12.5	+0.5	+0.4	33.2	-2.6	-1.1	
	宮口(牧)	71	5/21	69	86%	96%	378	株当19.0	101%	89%	11.8	-0.1	-0.3	31.9	-6.2	-2.4	7/13幼穂形成期 全量基肥肥料
中山間地	和田(安塚)	133	5/18	83	85%	115%	376	株当19.2	81%	88%	12.4	-0.4	+0.3	35.7	-6.2	+1.4	7/9幼穂形成期
	大島(大島)	152	5/16	83	91%	115%	449	株当23.0	102%	106%	12.5	+0.1	+0.4	26.6	-9.0	-7.7	7/11幼穂形成期
	菖蒲(大島)	337	5/26	76	84%	106%	435	株当21.0	79%	102%	12.2	±0.0	+0.1	32.2	-2.4	-2.7	7/16幼穂形成期
	高尾(牧)	340	5/19	73	-	101%	355	株当20.3	-	84%	12.2	-	+0.1	33.9	-	-0.4	7/13幼穂形成期
	平均			79	85%	110%	404	株当20.9	83%	95%	12.3	-0.2	+0.2	32.1	-5.3	-2.2	

(2)こしいぶき

場所	標高(m)	田植(月日)	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(葉)			葉色(SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
平坦地	長走(浦川原)	23	5/17	71	92%	99%	368	株当19.7	112%	91%	12.5	+0.3	+0.3	37.1	+0.4	+0.5	7/26頃出穂見込み

(3)つきあかり

場所	標高(m)	田植(月日)	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(葉)			葉色(SPAD)			備考		
			本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差			
中山間地	高尾(牧)	285	5/21	90	98%	134%	322	株当13.0	95%	97%	12.0	-0.8	+0.7	41.7	-1.3	01.8	7/28頃出穂見込み 全量基肥肥料

3 今後の管理のポイント

○「コシヒカリ」の出穂期は平年より1日程度遅く、前年より2日程度遅い見込みです。

○「コシヒカリ」の出穂予想(稚苗5/10~15頃、中苗5/15~20日頃の移植の場合)

平坦地:8月3日頃、中山間地:8月7日頃、管内平均:8月4日頃

○穂肥施用時期は各ほ場の幼穂長や葉耳間長を確認して判断しましょう。

○これから1回目穂肥を施用する場合は生育診断に基づき、時期及び穂肥量を判断しましょう。

○2回目の穂肥(出穂10日前)は、後期栄養を確保するため、窒素成分で1~1.5kg/10aを基本に確実に施用してください。出穂12日前頃の葉色が濃い(SPAD値35以上)場合は2回目の穂肥施用量を窒素成分で0.7~1kg/10aとしましょう。

○2回目の穂肥施用時期の考え方

①1回目穂肥を出穂期の18日前に施用した場合:出穂期の10日前に施用

②1回目穂肥施用を出穂期18日前より遅らせた場合:1回目穂肥の7日後に施用

③1回目穂肥を施用しなかった場合:出穂期の10日前に施用(出穂期10日前までに急激に葉色が低下する場合は直ちに施用)

○出穂の12日前頃から出穂・開花期頃は最も水が必要な時期です。用水を有効に活用するためにも、ほ場の水分状態に応じたこまめな水管理で稲体の活力低下や下葉の枯れ上がりを防いでください。

○いもち病感染好適条件が出現しています。新之助等のいもち病に弱い品種や、生育量が大きく葉色が濃いほ場及び、過去に発生が見られたほ場では、こまめに確認を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。

○病害虫発生予察調査では、斑点米カメムシ類が多く確認されています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底しましょう。

○暑い日が続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。